

議会だより



2/1 節分豆まき (保育所)



◇議長年頭のあいさつ	2
◇第4回定例会内容	3~4
◇一般質問	5~6
◇村政報告・本会議の質疑から	7
◇議員派遣の報告	8
◇請願・陳情審査結果	9
◇議会のうごき・編集後記	10

年頭のあいさつ



中島村議会議長
折笠三吉

皆さん、明けましておめでとうございます。

平成20年の新春を迎え、村民の皆様と新年の喜びを分かち合えることは、まことにご同慶にたえないところであります。村議会を代表して慎んで新春のお祝いを申し上げます。

おかげさまをもちまして、村議会も大過なく越年することができました。これも、ひとえに皆さま方の御支援と御協力の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、一年間を振り返りますと、まさに国内外ともに、多事多難な年でありました。一向に進まない北朝鮮の核問題と拉致問題、多発する自然災害に能登半島地震や新潟県中越沖地震と大きな地震が相次ぎ、その恐ろしさを痛感させられたところです。また、止まらない学校でのいじめによる自殺の連鎖や食品偽装表

示問題が多発した年でもありました。

そんな中、日本人に大きな感動と勇気を、世界に驚きを与え、日本国中を興奮させてくれたのが、7月のメジャーリーグ・オールスターゲームでの、イチロー選手の上史初のランニングホームランと日本人初のMVP受賞、そして10月の大リーグ・ワールドシリーズにおける初の日本人対決など日本人の活躍が光ったことは、今も私たちの記憶に新しいところであります。

一方、中島村に目を転じますと、村の諸計画も着々と進み、「住み良いふるさとづくり」の成果ががりつつあります。若い力として「吉子川小マーチングバンド」の2年連続の東北大会出場や、「中学生の野球・ソフトボール・男子卓球」等の県南大会優勝には、目を見張るものがあります。また、村民待望の文化複合施設(仮称)も昨年7月に着工となり、今春にはその完成が待たれ、社会教育施設の充実が期待されるなど、教育環境の整備も順調に進んでおります。

しかしながら、本村におい

ても少子高齢化に伴う福祉対策等の諸問題や、行財政改革及び地方分権の推進と相まって課題は山積しております。これらの課題を解決していくのが、議員に課せられた大きな責務であります。それには村民の方々のご理解とご協力が不可欠であります。村議会としても、自ら、昨年3月の議会定例会において、議員定数条例12人から8人とする条例を可決し、9月の議員改選の結果8人が新たに議員となり、少数精鋭の議会運営に努めています。限られた村財政の枠の中で難題を処理し「魅力ある村づくり」に努めていく覚悟ですので、村民の皆様にも一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

終わりに、今年も皆様一人ひとりととって、実り多い飛躍の年となりますよう、心より折念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

- | | |
|-----------------|---------|
| 写真(後列) | 写真(前列) |
| ・鈴木新平議員・加藤幸一議員 | ・鈴木新平議員 |
| ・水野谷博議員・吉田茂美副議長 | ・水野谷博議員 |
| ・円谷哲雄議員・折笠三吉議長 | ・円谷哲雄議員 |
| ・藤田利春議員・水野谷薫議員 | ・藤田利春議員 |

第4回定例会

平成19年第4回定例会は、12月14日から19日までの6日間の会期で開かれた。

審議案件は、専決処分の承認1件、条例の一部改正6件（提案された議案は9件、そのうち3件取り下げ）、定款の変更に関するもの1件、平成19年度補正予算6件、請負契約に関する議案1件を可決し閉会した。

◆専決処分の承認

◇平成19年度中島村一般会計

補正予算（第3号）

既定額に41万円を追加し歳入歳出総額24億9686万円とする。

歳入は、繰越金既定額に41万円を追加し3180万円とし、歳出は小学校費既定額に41万円を追加し、3810万円とする。

吉子川小学校マーチングバンド東北大会参加補助のため（7面に関連）

◆議決された条例関係

◆職員修学部分休業及び高齢者部分休業に関する条例

地方公務員法の改正により、複雑・高度化する行政課題に対応できるように職員の能力の向上に資すると認められた場合に承認される修学部分休業及び定年間近な職員が公務に支障がないと認められた場合承認される高齢者部分休業を創設。

一定事項の規定を条例に委任されている内容を定める。

◇職員の自己啓発等休業に関する条例

複雑・高度化する行政課題に対応できるように職員の能力開発を促進する観点から、職員自らの発意に基づいて職を保有したまま大学等における課程の履修と政府開発援助要綱において、物的・金銭的貢献、人的国際貢献を促進する旨が定められており、国際貢献活動のために休業すること認める制度を地方公務員制度に導入されたことを受け、条例に委任されている事項について定めた。

◇職員の育児休業等に関する条例の改正

地方公務員の育児休業等に関する法律が改正され、長期間の育児と仕事の両立が可能となるように、育児のための短時間勤務制度等を導入されたことを受け、所要の改正。

◇中島村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の改正

育児時間勤務制度の導入に伴う所要の改正。

◇職員給与条例の改正

福島県人事委員会は給料表等の改正について、平成19年4月1日に溯って適用する報告だったが、村財政基盤の堅持に努めているため、適用時期を12月1日とした。

◇中島村国民健康保険税条例の改正

健康保険法等の一部改正により平成20年4月1日からの特別徴収が実施となることから所要の改正。

◆定款の変更関係

◇白河地方土地開発公社定款の変更

郵政民営化法施行に伴う用語の改正。

◆議決された補正予算

◇平成19年度中島村一般会計補正予算（第4号）

既定予算額から2326万円を減額し、歳入歳出予算総額を24億7360万円と定めた。

歳入の主なものは、固定資産税の増額等により村税に613万円、国庫支出金・県支出金については、事務委託金等の確定により合わせて22万円を増額計上した。繰入金には、前年度決算に伴い、一般会計に繰り入れする介護保険特別会計繰入金に621万円を増額計上し、財政調整基金繰入金8390万円を減額。繰越金は、4740万円を増額計上。諸収入は受託事業収入に農林水産業費受託事業収入として8千円を増額計上。村債に地方交付税の代替処理としてある臨時財政対策債を64万円増額。歳出の主なものは、人事委員会の勧告による給与改正に関する費用をそれぞれ計上した。

議会費は、議員定数の削減等により797万円を減額。

総務費は財政管理費の委託料賦課徴収システム使用料と給与改定に伴う費用で80万円を増額計上。

民生費は、国保会計への繰出金、介護保険繰出金、障害者福祉費、給与改定に伴う費用合わせて74万円を増額。

衛生費は、簡易水道特別会計への繰出金の減額と給与改定の費用合わせて926万円を減額計上。

農林水産業費は、農業集落排水処理事業特別会計繰出金と給与改定を合わせて876万円を減額。

商工費は給与改定分4万円を増額計上。

土木費は童里夢公園修繕費と給与改定合わせて58万円を増額計上。

消防費は給与改定分7万円を増額計上。

教育費は、準要保護児童援助費の人数増による増額、事業費の確定のための減額及び給与改定分を合わせて45万円増額計上。

予備費に3万円増額計上。

◇平成19年度中島村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

既定額に、2778万円を追加し、歳入歳出予算総額を5億7195万円と定めた。

歳入は国庫支出金99万円、療養給付費交付金1128万円、一般会計からの繰入金20万円、繰越金1530万円をそれぞれ増額。

歳出は、総務費に国保データベースパッケージソフトの購入費用及び給与改定等に121万円を増額。

保険給付費は、療養諸費と高額医療費を合わせて2656万円を増額計上。

◇平成19年度中島村簡易水道特別会計補正予算(第1号)

既定予算額に2万円を追加し歳入歳出予算総額を1億4170万円と定めた。

歳入は、一般会計からの繰入金941万円を増額し、繰越金944万円を増額計上。歳出は給与改定分2万円を増額計上した。

◇平成19年度中島村老人保健特別会計補正予算(第2号)

既定予算額に33万円を追加し、歳入歳出予算総額を3億9294万円と定めた。

歳入は、繰越金33万円増額し、歳出では、医療費の増に伴い医療諸費に同額増額。

◇平成19年度中島村農業集落排水処理事業特別会計補正予算(第1号)

既定予算額から52万円を減額し歳入歳出予算総額を2億3347万円と定めた。

歳入は、一般会計からの繰入金896万円を減額し、繰越金844万円を増額計上。

歳出は人事異動及び給与改定分52万円を増額計上した。

◇平成19年度中島村介護保険特別会計補正予算(第2号)

既定予算額に997万円を追加し、歳入歳出予算総額を2億1589万円と定めた。

歳入は、一般会計からの繰入金5万円、繰越金992万円を増額計上した。

歳出は総務費に給与改定分5万円増額。保険給付費は全体で180万円減額。基金積立金は、550万円を増額計上した。諸支出金は621万円増額計上。

◆請負契約関係

◇平成19年度中島村文化複合施設新築工事請負変更契約締結

平成19年6月14日に議決した請負契約を、834万円増額し、3億6994万円とする。

◆条例改正案の取り下げ

条例改正案は県人事委員会の勧告に準じて議員、村長、副村長、教育長の期末手当を0.05ヶ月高く改正する内容だったが村は改正について再検討する必要があると判断し、次の3件を取り下げた。

◇議会議員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例
◇村長等の給与及び旅費に関する条例の改正

◇教育長の給与、勤務時間その他勤務条例に関する条例の改正

(7面に関連)

傍聴においでください!

3月定例議会は

3月上旬~中旬 開会予定

一般質問

12月定例議会での一般質問には、本会議2日目の2人の議員が登壇した。その質問と答弁の概要は次のとおりである。



藤田 利春 議員

農業振興について

①四ヶ村幹線水路等改修整備は
②水田に付随すべき用水路確保は

藤田 県内でいち早く着工した第一次構造改善事業・県営圃場整備事業により、昭和38〜41年度に430ヘクタールが整備され、現在の中島村農業の基礎を築いて来たことは言うまでもありません。その結果、水田に多種多様な作物栽培が可能となり、近代的な施設・機械の導入により、県内トップクラスの農業収入を得

ることとなり、ものすごい事業効果である。中島村第4次

振興計画から、担い手がスムーズな規模拡大と有利な条件での農業経営ができる条件整備の急務がうたわれていることから、村の10年後20年後をみると、経年劣化に伴う四ヶ村幹線水路の改修整備と、水不足地域解消のための用水路の新設等、水の有効利用からも専門家のアドバイスを受けながら検討委員会の早急な設置と、限られた改良区の予算につき実施に当たっての村の財政支援を強く望みますが村長の考えは？

村長 四ヶ村幹線水路の四ヶ村堰から天神西地区まで、新田天倉一氏宅から新田五差路までの区間は、平成2〜12年にかけて用排水路整備事業で、支線水路は昭和57〜平成2年にかけて県営土地改良

総合整備事業で、それぞれの用水路を整備したため、特に機能的に支障があるとは認められないので、現在のところその整備は考えていません。用水路の新設は、特に必要とは感じていないことから、用水路の改修整備計画推進のための検討委員会の設置は今のところ考えていません。

③水不足地域解消対策は

藤田 近年、兼業農家の増加に伴い休日対応型の農作業が多くなると共に、用水路の老朽化等から水不足を来し、末端では排水路からの用水確保に苦労している。

毎年、水確保問題解決に対処されている改良区役員の方々の姿に頭が下がりますが、改良区理事長である村長としての考えは？

村長 水稻の植付け時に一斉に代かき作業が行われ、用水が一時的に下流まで来ないことがある。改良区としては上流から順次用水利用の調整を行っています。

このような用水の利用については、元来農村では「よき

風習」としてあったように覚えていられる。限りある資源を有効に使用し生産向上に努められることを願います。仮に用水路の機能に問題があった場合は、所管土地改良区で十分検討します。

藤田 水は上から下へ流れます。しかし、その有効利用の方法と、排水から用水へ戻す方法についての考えを伺いたい。

村長 基本的に水不足とは阿武隈川・泉川の水が少ない時である。また、排水路の水を再利用できることで構造改善の設計がされていたのかなど、私は現実的に見ている。排水路をとめてかけている部分も確かにあり、有効活用で良い方法と思うが、改良区の中で下流への感情的影響を解消しながらやってきました。

藤田 水不足のとき、村長自らが上と下に分けながら水門を調整し、末端への水確保に努力されていることは認めます。村民地権者のニーズがストレートに伝わってくることから、水を末端まで流す方

法について改良区と行政側が共に力を入れてやってもらいたい。

村長 兼業農家が進み田植え時期は連休を利用したいのが心情であり、十分承知しており、村でも産業振興から改良区を中心として検討や現状把握に努めます。

藤田 改良区の規約の中にも新設・補修・整備ときちんとして書いてあることから、今後とも地権者が納得いくような事業を展開してもらいたい。





水野谷 薫 議員

新年度予算編成 基本姿勢について

水野谷

わが国の景気は上

向いていると言うが、地方自治体を取り巻く環境は依然厳しい状況が続く、都市と地方の格差拡大、地方財政の悪化、所得の伸び悩み、それに追い討ちをかけるように高騰を続ける原油価格、それに代わる代替エネルギーとして注目を浴びるバイオエタノール燃料

による世界穀物市況の高騰が我々の日常生活にも大きな影響をもたらしている。

また、大きな社会問題でもある少子高齢化対策、年金、医療、福祉対策、農業においても後継者対策や米価の下落、米の生産調整、各資材の値上げ等、本村にとっても避けて通れない大きな問題である。このような状況下を念頭においていただき質問します。

①基本姿勢は

村長

本年度に引き続き三位一体の改革により厳しい財政の中編成するも、地方6団体をもって国へ積極的に地方への財政確保のための要請をしている。地方交付税の交付については、頑張る地方応援プログラムなどプロジェクト重視の傾向が強まり、団体によつては本年度より少なくなるのではと危惧しています。歳入を適切に把握し、歳出には経費節減、事務の合理化を図り、限られた財源を有効かつ効果的に事業執行できるように編成したい。

②歳入歳出予算規模は

村長

国の動向を見据えて、国・県の予算編成指針を参考に編成したい。前年度の公民館建設を差し引きした分の前年度並みであり、公債比率は確定していませんが、そんなに伸びないと予想しています。

③新規事業は

村長

19年度複合文化施設建設の完了に伴い、既設中央公民館の解体跡地整備事業、予算状況によるが新たに小学

校施設の耐震整備事業を検討したい。また、若者の定住化促進を図ることから宅地分譲の促進、企業誘致に努めます。

水野谷「企業誘致」について

第4次総合振興計画にもうたつていっているとおり、村の収入を増やす形からも積極的にその誘致促進を図ってもらいたい。このままだと中島村もますます非常に厳しい状況におかれていくと危惧いたします。

村長

いろいろと努力はしており、無視しているわけではない。今回の質問通告に無かつたので、後に答弁する機会があると思いますので、省きます。

④農業関係事業は

村長

青果物価格補償事業、優良牛導入貸付事業については、長年継続しその役割が大きいことから継続事業としていた。また、本年度より実施してきた農地・水・環境保全向上対策事業、農地流動化推進助成金事業、森林環境交付事業についても継続事業としていた。新規事業としては、老朽

ため池調整事業による呉羽池堤体改修工事のための調査設計を検討したい。

⑤商工関係事業は

村長

中小企業経営合理化資金融資制度、商工会が運営する新交通システム事業については、継続補助したい。商工会の街路灯の老朽化に伴う修繕工事については、商業振興から新規補助事業として考えたい。

産業建設課長(宮本)

中島村中小企業融資利子補給交付要綱の下、商工会を通じて借りる資金について、18年度までに借り受けたものに対しては、20年度も引き続き利子補給の補助をしたいと考えている。この制度は、県内・西郡とも無くなつたことを踏まえ、本村でもこれを廃止することとした。これにかわる中小企業経営合理化資金融資制度は、保証協会を通じて借りる資金であり、この資金を活用願います。

水野谷

この制度は多くの商工会会員が利用し経営に非常に役立つことで、残念との声が聞かれた。中島村独自に予算化されれば大変いいと思います。

⑥補助金の見直しは

村長

法例外負担金について



では県町村会並びに西白河地方町村会等を窓口とし原則5%の減額交付を目標に調整している。村単独補助金については、補助団体の公共性公益性、財政状況等にかんがみその重要性によつて重点配分を心がけたい。

いざれにしても、歳入総額の中で対処するも、健全財政を堅持した予算編成を考えています。

水野谷

最後に、確かに厳しい財政状況と限られた予算の中、メリハリをつけ効率的、効果的に運用し村民の汗の結晶である税金を無駄にすることなく、豊かで希望の持てる村づくりを期待して質問を終わります。

村政報告



小室康彦 村長

◆吉子川 マーチングバンド

10月27日、第26回全日本小学校バンドフェスティバル東北大会が宮城県総合体育館で開催され、吉子川小学校マーチングバンドが2年連続出場し、立派な演奏・演技をされた。

◆村民マラソン大会

10月28日に開催された「村民マラソン大会」は、好天に恵まれ競技者285人参加の中、3部門で大会新が出るなどすばらしい大会となった。

◆村民文化祭

改善センターをメイン会場として、11月2日から4日まで開催され、幼稚園児から高齢者までの幅広い方々の出展があり、盛況を博した。

◆ふくしま駅伝

今年で第19回を数える「市町村対抗ふくしま駅伝大会」は、11月18日に開催された。当日は大変良い天候に恵まれた中、福島までの16区間、96kmのコースを各選手ベストを尽くし、見事目標タイムをクリアした。

順位も村の部7位、総合31位と昨年度の順位を上回った。

◆工事関係 (道路改良工事)

★二ツ山地区

入札を経て発注を済ませていくところである。

★小針地区

入札を経て発注を済ませていくところである。

いずれの工事も、計画に従って順調に進んでいる。

◆文化複合施設工事

今議会に、請負契約の変更について提案している。



小針地区



二ツ山地区



本会議の質疑から

▼総務課

(議員報酬等条例改正案)

Q 議員手当で引上げ条例改正は、必要なかったのではないかと。
A 議員定数が削減され責任の度合いが大変重くなったと認識していることから、改正を提案したものである。

▼学校教育課

(マーチング補正予算)

Q マーチング東北大会への継続的補助対策は。
A 県大会を経て東北大会へ進む形から、今後東北大会へ出場できるか今の段階では分からない。一生懸命練習を積み重ねその結果次第である。

Q 過去にもこのような大会に出場し、前教育長時にも話したが、何か良い方法はなにか。例えば「後援会」とかを組織し財源を確保しておいて、緊急時に対応するような考えは。
A 当初から予算計上し、結果大会に出場できずその予算を落とすことにもなることから、総合的に「予備費」

Q 議員定数が削減時に、ベースアップは問題だ。
A 人事院勧告を尊重し、一人ひとりの責任の重みが大きくなったと考え提案した。

Q 議員定員を削減して得たものを職員給与に当てることは、議員の削減が生きてこない。
A 経費節減については全体として捉えなければならぬ。職員の削減からすれば、今までの8年間に12名の職員を削減した。

※これに関連し村は議員・村長等・教育長の期末手当条例改正案3件を取り下げた。

◆議員派遣の報告

委員長よりそれぞれ報告があった。

◆町村議会議員研修会

総務教育常任委員会

委員長 加藤 幸一



本村議会議員は、去る11月12日「ビックパレット」において開催された県町村議会議員研修会に参加した。

東京大学教授 神野直彦先生による「地方分権改革と地域格差」と題した講演は、グローバルイノベーションがもたらす地域間格差と地域内格差が同時進行している。よって、国土の均衡ある発展と国民がゆとりと豊かさを実感できる社会づくりのため、地方公共団体の果たす役割と地方議会のあり方に国民が強い期待を



寄せていると、具体的に説明されました。

次に、テレビ朝日キャスター・コメンテーター三反園訓先生による「政局展望を探る」と題した講演は、先の「安部」総理のまさかの退陣劇と「福田」総理大臣の誕生劇、大連立構想不調からの「小沢」民主党代表の辞意騒動劇、さらにねじれ国会における衆議院解散選挙の行方等について、その裏側を交え生々しく説かれました。

参加費は、地域住民の代表としてその使命に徹した議会活動を積極的に展開するべき立場から、それぞれの講演は議員の教養向上として大変有意義な研修を得た次第であります。



◆町村議会広報研修会

議会広報編集委員会

委員長 水野谷 博



去る10月10日「郡山ユラクス熱海」において開催された、福島県町村議会広報研修会に、本村議会広報編集委員会全員が参加した。

研修は、広報コンサルタント深沢徹先生による「実践的議会広報論・議会広報クリニク」について詳しく講義を受けました。

議会広報は、住民への議会の報告書であり住民と議会を結ぶ架け橋であることから、基本姿勢として議員の自主編集、議事公開の徹底、住民参加が示された。編集技術としては、住民の目線で硬い役所文書でなく、平易で分かりやすい紙面づくりが求められました。

議会広報の編集にあたって、読者の期待に応えられるよう、研修の成果を今後の編集に活かしたい。



請願・陳情 審査結果

総務教育常任委員会

委員長 加藤幸一

★義務教育費国庫負担制度の堅持と教育予算の充実に求める意見書提出の陳情

◎陳情者

福島県教職員組合
中央執行委員長 薄井信義
西白河支部長 深谷拓男

◎趣旨

福島県では県単独で30人学級、33人学級など少人数学級・少人数指導を実施し教育効果を上げていくが、国の義務教育費国庫負担制度による負担割合が三分の一に大幅削減されたことで、地方に大きな負担を強いている。また、地域による教育条件の格差も広がっている。



よって、子供達がどこで生まれ育ったとしても等しく良質な教育を受けられる教育の機会均等が保証されるための教育予算を国の責任でしっかりと確保・充実させる働きかけを求める陳情。

◎審査の結果 採択

※審査に当たった委員
提出者 加藤 幸一
賛成者 水野谷 博
" 藤田 利春

産業建設常任委員会

委員長 水野谷薫

★地域別最低賃金の引上げと最低賃金制度の抜本的改善を求める意見書提出の陳情

◎陳情者

白河地方労働組合総連合
議長 河原 一夫

◎趣旨

現在の福島県の最低賃金は「時間額629円」だが、この金額では1日8時間・月22日働いても月収は110704円にしかならず、まともな生活を支える水準ではない。低賃金の広がり、社会保険料未納者の増加や経済的自立ができず結婚できない人の増加につながり、少子化を加速させるなど、社会基盤を危うくさせる。また、現在の最低賃金制度では地域間格差が広がってしまう。

よって、最低賃金法の改正に当って、時間額を千円以上に引き上げ、全国一律最低賃金制度の確立を求める陳情。

◎審査の結果 採択

※審査に当たった委員
提出者 水野谷 薫
賛成者 鈴木 新平
" 円谷 哲雄



意見書を 関係大臣に提出

12月定例議会最終日に議員提出議案として意見書案が提出され原案のとおり可決しました。

可決した意見書を政府関係大臣に提出し、要望した。



閉会中の 継続審査申出

議会運営委員会（藤田利春委員長）から、会議規則第75条の既定により、次期議会の会期日程等の議会運営に関する事項及び議長との諮問に関することの申し出があり承認された。

★義務教育費国庫負担制度の堅持と教育予算の充実に求める意見書

★地域別最低賃金の引上げと最低賃金制度の抜本的改善を求める意見書

全員協議会、建設中の「文化複合施設」視察!

去る、11月26日議会全員協議会で昨年7月に着工した「文化複合施設」の進捗状況を全議員が視察検分しました。

視察には村執行部から村長・副村長・教育長・生涯学習課長・産業建設課長らが立ち会いました。

一部工事の変更又は追加が必要な箇所等についても、担当より詳しく説明を受けると共に、現場を確認しました。



月日	事	項
11月	1日	・広報編集委員会
	2日	・西白町村議会議員ゴルフ大会(西郷)
	6日	・ふくしま駅伝中島チーム選手壮行会
	10日	・吉子川あやめフェスティバル
	12日	・県町村議会議員研修会(郡山)
	16日	・村消防団新幹部歓迎会
	17日	・滑津小学習発表会
	18日	・ふくしま駅伝大会
	19日	・福島県町村議会新人議員研修会(福島)
	21日	・福島県町村議会議長会感謝状贈呈式(福島)
12月	23日	・村芸能発表会
	26日	・全員協議会
	30日	・町村議会議長会全国大会(東京)
	1日	・子どもの国の発表会(幼稚園)
	6日	・広域圏整備組合市町村長・代表議長会議
	10日	・議会運営委員会
	14~19日	・第4回(12月)定例議会
	25日	・西白河衛生処理一部事務組合議会(白河)
	26日	・広域市町村圏整備組合定例会(白河)
	1月	5日
6日		・消防出初式・安全祈願祭・表彰式・新年祝賀会
7日		・市町村長・市長村議会議長合同新年会(白河)
11日		・西白河地方町村議会正副議長新春懇談会(白河)

議会のトピックス



1/6 新年祝賀会



編集後記

平成20年も平穩の中でスライトすることができました。近年は地球温暖化の影響で雪も少なく、雪かきの光景に懐かしさを感じるようになってしまいました▼さて、今年はずいぶんありますがインターネットの占いサイトを見ると、今年の運勢はねずみに似たような感じになるということです。土の中、水まわりを生活圏にしているネズミのキーワードは、繁殖と破壊、社会経済でも水面下の活動が活発となり、目に見えない所で大きなつねりを起こす事態が頻繁に起こると予想されています▼株価も予想に反し年初来の低落があり、政治も与野党の対立が激化し「日本丸」の船出も前途多難と見ることが出来るのではないかと▼ただ、ねずみ年生まれの人は小さなことを積み重ね晩年には倉が建つ運勢を持っているそうです。日ごろの小さな積み重ねが大きな事への第一歩であると自覚したい。平成20年、節目の年であり、社会も人も成人となれるよう頑張りたいと願わずにいられます (加藤)